

平成 30 年 11 月 20 日

「プラスチック資源循環アクション宣言」  
～みんなの力でプラスチック資源の循環に取り組もう～

株式会社エフピコ

「プラスチック資源循環アクション宣言」に対する弊社の考え方を以下に述べさせていただきます。

記

第四次循環型社会形成推進基本計画で掲げられた「プラスチック資源循環戦略」に則って、具体的な取り組みとしての「未利用プラスチックをはじめとする使用済みプラスチック資源の徹底的かつ効果的・効率的な回収・再生利用」について、当社は以下のように考えております。

まず、昨今の多方面で報道されている海洋プラスチックごみ問題については、ポイ捨てをはじめとする廃棄物管理の問題として捉え、脱プラスチックや脱石化由来（バイオマスプラスチック化）の動きとはきちんと分けて考え、全てのステークホルダーに理解を求めて参ります。

【海洋プラスチックごみ問題】

- ・原因は「ポイ捨て」によるため、廃棄物の管理を徹底するよう求めて参ります。
- ・容器メーカーとして製品のリデュースの推進を加速させながら、本来の容器包装の機能（中身の保護等）を満たすことも重要と伝えて参ります。
- ・リサイクル手法については、単一素材は材料リサイクルに適していると伝えて参ります。  
（すでに、発泡トレイ、PET ボトルについては材料リサイクルされ循環しております。）

【脱石化由来プラスチック】

- ・バイオマスプラスチックへのシフトは、石化由来への代替であり、CO<sub>2</sub> の問題であり、海洋ごみ問題の解決とは意味が違うことをきちんと伝えて参ります。
- ・バイオマスプラスチックを安定的・継続的に供給する上で、可食原料を由来とするのであれば食糧（穀物等）への影響を十分に考慮する必要があることを伝えて参ります。
- ・生分解性プラスチックについては、分別・識別が難しい問題とコンポスト化施設が必要であるという課題を解決する必要があることを伝えて参ります。
- ・食品ロス削減が叫ばれる昨今、食品のロングライフ化に対して、容器包装に高機能化が

求められており、それに応えるべく容器包装は複合素材化が進んでおります。その複合素材については材料リサイクルには向かないことを理解していただくよう求めて参ります。

#### 【エネルギー有効利用】

- ・複合素材については、資源の乏しい日本であるからこそ効率性を高めた熱回収（エネルギーリカバリー）として有効利用できることを伝えて参ります。
- ・各自治体においては、住民の分別排出が習慣化し、燃えるごみが焼却炉で十分に燃焼せずに助燃材として重油等の投入が現実的に行われていると聞きます。廃プラスチックはもともと石油製品であり、一度はプラスチック製品として機能（役割）を果たした後で、廃プラスチックを助燃材として焼却炉に投入し、エネルギーリカバリーすることが有効であることを理解して頂くよう求めて参ります。
- ・エネルギーリカバリーについて、ごみ発電等の高効率化を目指すことは言うまでもありません。

当社は今後も事業活動を通じて様々なステークホルダーに対して「プラスチック資源循環戦略・海洋プラスチック問題に資する取り組み」を発信して参ります。

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



以上

## エフピコ方式のリサイクルの消費者普及啓発活動について



### <取組みの概要>

1992年より全国に展開するリサイクル工場を開放し、積極的に見学者を受け入れ、リサイクルの啓発普及活動を行っている。

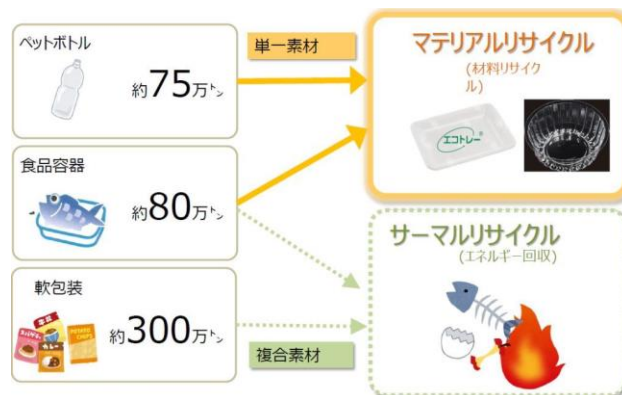
第四次循環型社会形成推進基本計画で掲げられた「プラスチック資源循環戦略」に則って、具体的な取り組みとして「未利用プラスチックをはじめとする使用済みプラスチック資源の徹底かつ効果的・効率的な回収・再生利用」に従って、当社は、海洋プラスチックごみ問題については**廃棄物管理の問題として捉え**、脱プラスチックや脱石化由来の動きとはきちんと分けて考え、一般消費者に理解を求めていく。具体的には、以下の通り。

#### 【海洋プラスチックごみ問題】

- ・原因は「ポイ捨て」によるため、廃棄物の管理を徹底するよう求める。
- ・容器メーカーとして製品のリデュースを推進しながら、本来の容器包装の機能(中身の保護等)を満たすことも重要と伝えていく。
- ・リサイクル手法については、**単一素材は材料リサイクルに適している**と伝えていく。  
(すでに、発泡トレイ、PET ボトルについては材料リサイクルされている)

#### 【脱石化由来プラスチック】

- ・バイオマスプラスチックへのシフトは、石化由来への代替のことであり、CO2の問題である。海洋ごみ問題を解決することとは違うことをきちんと伝える。
- ・バイオマスプラスチックを安定的・継続的に供給する上で、可食原料を由来とするのであれば食糧(穀物)への影響を十分に考慮する必要があることを伝える。
- ・生分解性プラスチックについては、分別・識別の問題とコンポスト化施設の問題を解決する必要があることを伝える。
- ・食品ロス削減が叫ばれる昨今、食品のロングライフ化に対し、容器包装に高機能化が求められており、それに応えるべく複合素材については材料リサイクルには向かないことを理解するよう求めていく。
- ・その**複合素材については、資源の乏しい日本であるからこそ効率性を高めた熱回収(エネルギーリカバリー)として有効利用できる**ことを伝える。



## 「トレーtoトレー」のリサイクルによる廃プラスチックの削減

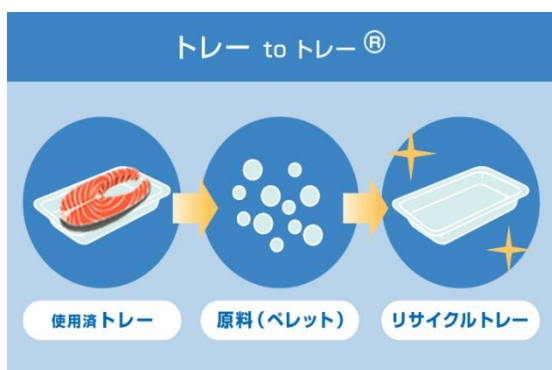


### <取組みの概要>

1990 年からスーパーマーケット等の店頭で回収した使用済み発泡スチロール製トレーを自社のリサイクル工場で原料に戻し、食品トレーに再生している。（「トレーto トレー」のリサイクル）

消費者・スーパーなどの小売店・包材問屋・エフピコの 4 者が一体となった「エフピコ方式のリサイクル」システムは、国民全員参加型のリサイクルシステムとして定着。

全国約 9,200 拠点（2018 年 3 月）に発泡スチロール製トレーの回収ボックスが設置されており、使用済みトレーを使い捨てする事なくリサイクル循環することでプラゴミ海洋流出の抑制を進めている。



### <数値目標等>

回収量拡大: 発泡スチロール製トレー及び透明容器

**年間 1 万 t（2020 年度目標）**

### <これまでの実績>

2017 年度 発泡スチロール製トレー及び透明容器回収量: 8,400t/年



## 「ボトル to トレー」のリサイクルによる廃プラスチックの削減



### <取組みの概要>

2011 年から使用済み PET ボトルを回収し、自社のリサイクル工場で原料化し透明容器(エコ APET)に再生している。

エフピコグループとして年間 5 万トンの PET 素材の再生原料を生産している。

使用済み PET ボトルをごみとせず、効率的にリサイクルを行う事で、廃プラスチックの削減を進めている。



※フレーク：PETボトルを粉碎し、洗浄・乾燥させた破片状の原料

### <数値目標等>

回収量拡大:PET ボトル **5,000t/月(2020 年度目標)**

### <これまでの実績>

2017 年度 PET ボトル回収量:約 47,000t/年





## トレーリサイクルの消費者普及啓発活動



### <取組みの概要>

1992 年より全国に展開するリサイクル工場を開放し、積極的に見学者を受け入れ、リサイクルの啓発普及活動を行っている。

これまでに累計 45 万人を越える方々にご見学頂き、活発なコミュニケーションを継続している。また、全国各地での講演会・展示会等へも積極的に参加し循環型リサイクルへの参加・ご協力を促している。

#### 【工場見学風景】



#### 【展示会風景】



### <数値目標等>

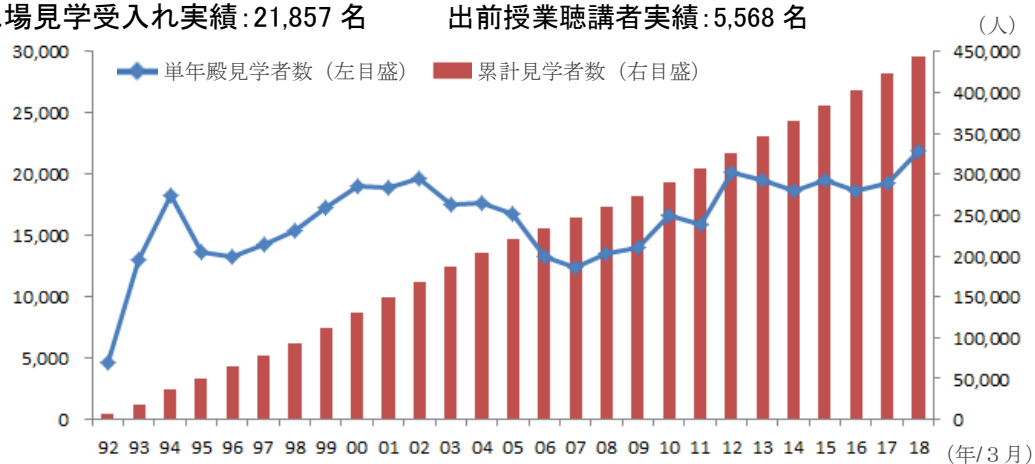
消費者団体の方々とリサイクル協力体制を強固にするために、工場見学者数及び教育機関への出前授業や各種講演会、展示会等での外部講演者数について、**2020 年度までに 23,000 人/年の達成**を目指す。

### <これまでの実績>

2017 年度

工場見学受入れ実績: 21,857 名

出前授業聴講者実績: 5,568 名



## トレーリサイクルの消費者普及啓発活動



### <取組みの概要>

弊社のエコ製品である「エコトレー」及び「エコ APET」への変更に伴う CO2 削減効果を、全国のスーパーマーケットをはじめとする小売店舗の掲示板にポスターで掲示することで、小売店舗での環境活動の見える化を地域住民へ対して行っている。



### <数値目標等>

CO2 削減効果ポスターを**2018年度に100社掲示達成**を目指す。

### <これまでの実績>

2018年6月末時点で、81社4,343店舗に設置している。

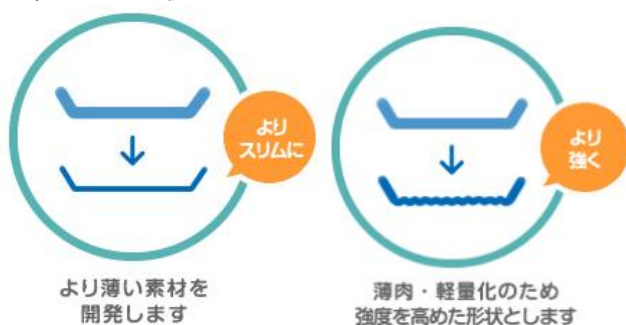
## 食品容器の薄肉化による廃プラスチックの削減



### <取組みの概要>

プラスチック製食品容器の環境配慮設計を推進し、製品の薄肉化を進めている。素材や発泡倍率、形状等を変更し品質や機能性を損なう事なく、プラスチック使用量の削減に努めている。

### ～軽量化・形状～

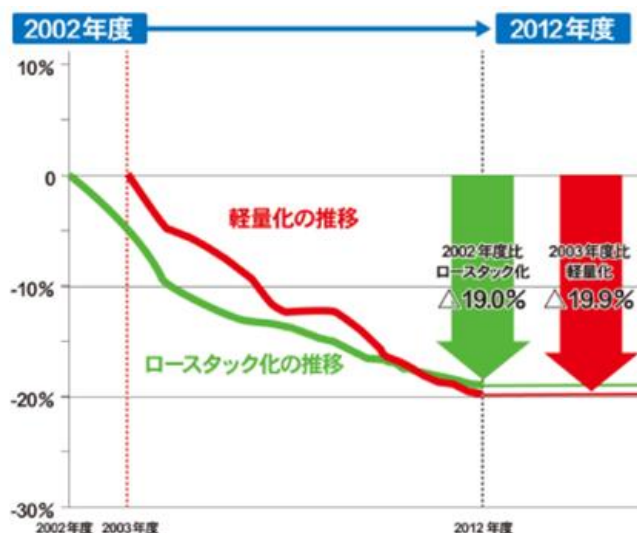


### <数値目標>

発泡倍率・薄肉化等の技術開発及び素材転換により、販売する食品容器全体の平均重量を対象として **2020年までに2013年度に対して5%の軽量化・薄肉化**に取り組む。

### <これまでの実績>

製品全体の実績では2003年度～2012年度で約20%の軽量化を達成。





## 「二軸延伸PET」技術によるPET樹脂の省資源化

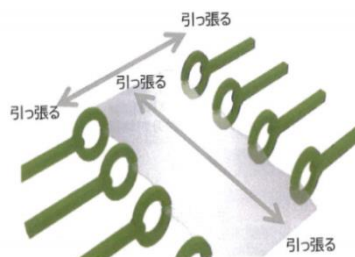


### <取組みの概要>

弁当や惣菜を中心とした透明蓋付容器(以下透明容器)の主な原料は「OPS(二軸延伸ポリスチレン)」と「PET」があり、OPSは強度、耐熱性に優れるものの、耐油性に劣り、一方PETは、透明性・耐油性に優れているが、耐熱性が劣るため電子レンジで加熱することができない弱点があった。



当社は、透明性に優れ食品の見栄えが良くなるPET原料の耐熱温度を上げるため、縦と横の二方向に延伸する二軸延伸技術開発に取組み、2012年11月、食品容器では世界初となる「二軸延伸PET」製品(以下OPET製品)を上市した。二軸延伸により耐熱性が上がるほか、強度もアップすることから、**製品の厚みを薄くして軽量化した結果、約27%のPET原料の省資源化が可能となった。**

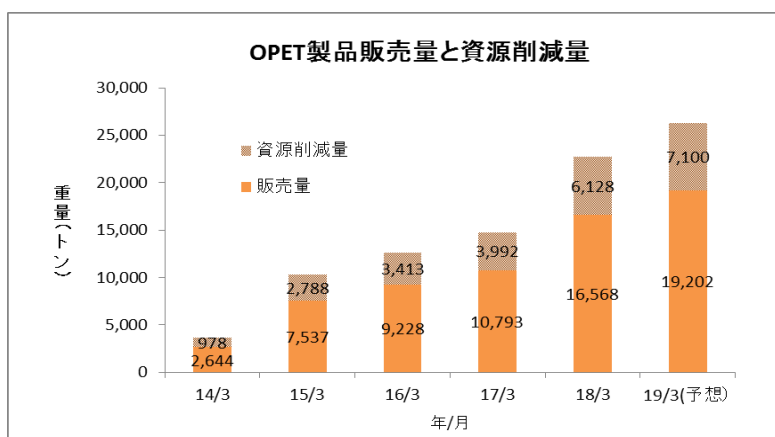


### <数値目標>

**2019年度 PET原料省資源化目標 ▲7,100t**

### <これまでの実績>

2015年3月期から2018年3月期の期間において、二軸延伸によるPET原料の省資源化は、約16,320トンである。





2018年11月20日

「プラスチック資源循環アクション宣言」  
～みんなの力でプラスチック資源の循環に取り組もう～

株式会社モスフードサービス

株式会社モスフードサービスは、事業活動がもたらす環境影響を認識し、環境保全活動に積極的に取り組むことで、循環型社会の実現と社会の持続的発展に向けて行動しております。

これまでに行ってきたおもなプラスチック資源循環アクションは、以下のとおりです。

① リユース食器の活用

創業以来、店内で提供する商品の容器やカトラリーは、使い捨てではないリユース食器を使用しています。

- 具体例（抜粋）
- ・ホットドリンク用マグカップ
  - ・アイスドリンク用ドリンクカップ
  - ・スープカップ
  - ・サラダ（S）用ボウル
  - ・ステンレススプーン、ステンレスフォーク

② 石油由来素材の使用削減

持ち帰り用の容器包装類には、できるだけ石油由来素材ではなく、再生可能原料やリサイクル原料を使用するよう努めています。

- 具体例（抜粋）
- ・ホットドッグ容器を発泡スチロール製から紙製へ（1999年～）
  - ・店内用トレイをメラミン製からリサイクルPET製へ（2001年～）
  - ・手提げ袋をポリ袋から紙バッグへ（2006年～）
  - ・持ち帰り用サラダ容器（一部石油系プラスチック製）をリサイクルPET製へ（2016年～）

今後もこれらの活動を継続するとともに、プラスチック資源が有効かつ適切に循環利用されるためのさまざまな取り組みを積極的に推進してまいります。

<この件に関するお問い合わせ先>

CSR推進室 社会共創グループ 担当：松田  
TEL. 03-5487-7344 FAX. 03-5487-7340 E-mail. kankyo@mos.co.jp

<報道関係者からのお問い合わせ先>

会長・社長室 広報 IR グループ 担当：金田  
TEL. 03-5487-7371 FAX. 03-5487-7389 E-mail. pr@mos.co.jp

株式会社モスフードサービス  
〒141-6004 東京都品川区大崎 2-1-1 ThinkPark Tower 4F  
<https://www.mos.co.jp/company/>



2018年11月20日

## カゴメ プラスチック資源循環アクション宣言 2018 ～みんなの力でプラスチック資源の循環に取り組もう～

カゴメ株式会社

昨今の海洋ごみ問題を始めとした、プラスチックが生態系やヒトの生活に悪影響を及ぼしている現状を踏まえ、今後もカゴメは、有効な資源としてのプラスチックの適切な循環利用といった社会課題の解決に向けて、以下に掲げる取り組みを推進して参ります。

### 【1】商品におけるプラスチック使用量低減の継続推進

不要なプラスチックの排除、軽量化、代替素材への変更等を進めます。

### 【2】生産工場におけるゼロエミッション(含 廃プラスチック)の継続推進

カゴメでは「生産余剰物の99%以上を再資源化すること」をゼロエミッションと定義しています。2005年から現在まで実現してきたゼロエミッションを、今後も維持、継続します。

### 【3】再生PET原料の利用検討

国内でのPETボトルからPETボトルへのリサイクルを促進するため、使用済みPETボトルから再生されたPET原料の自社商品への利用可能性を検討します。

### 【4】プラスチック容器の散乱防止啓発のための環境美化活動の継続推進

事業所周辺の清掃活動、全国の環境美化活動団体への協力・支援等を今後も継続します。

以上、行政や業界団体、各企業と連携を取りつつ、企業市民としての活動に取り組んで参ります。

連絡先

担当部署:品質保証部環境システムグループ

電話番号:03-5623-8501